



サステナビリティマネジメント

戦略

PIOLAX ESG Vision 2030

当社ではサステナビリティ課題の解決に向け、2030年に向けたビジョン「PIOLAX ESG Vision 2030」を掲げて重点方策を定め、KPIに落とし込んで活動を継続しています。持続可能な社会の実現に向けて企業責任を果たすとともに、当社の成長につながる重要な戦略として、中長期的な視点で着実に実行していきます。

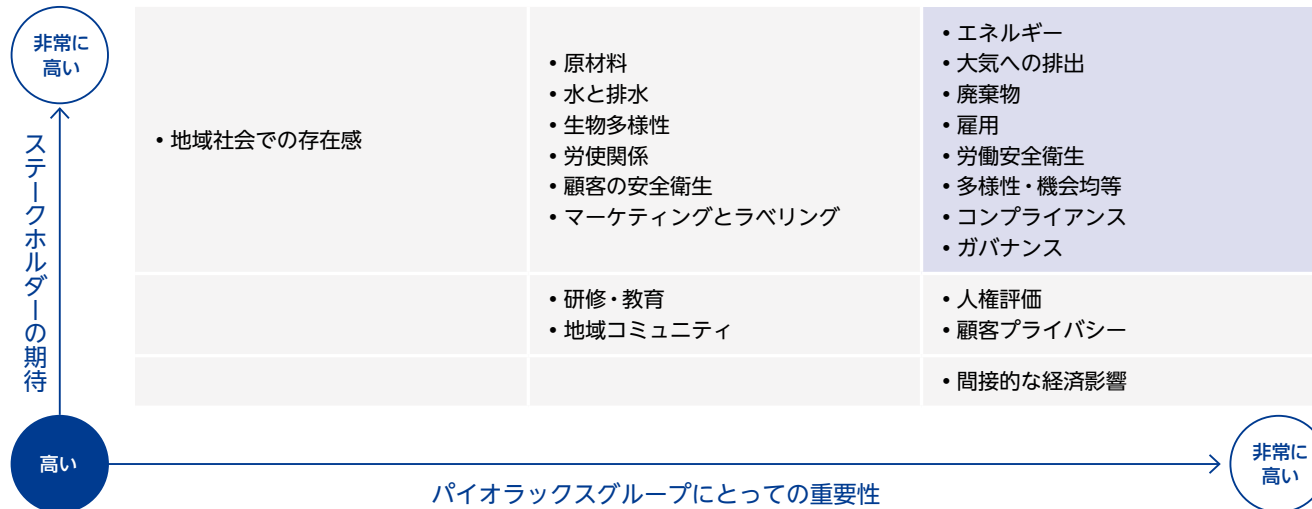
マテリアリティ

ー マテリアリティ特定プロセス

当社は取り組むべき課題を、当社グループとステークホルダーの2つの視点から整理しました。課題整理には「マテリアリティ・マトリックス」を使用し、課題の重要性と位置づけを明確にしました。

右のプロセスに沿って、課題を抽出しました。

マテリアリティ・マトリックス



STEP1 社会課題の抽出

サステナビリティ委員会において、GRIスタンダードにも反映されているトリプルボトムライン(環境・社会・経済)の側面34項目を参考に、パイオラックスグループを取り巻く社会課題と、ステークホルダーが当グループを評価する際に重視する社会課題について抽出しました。

STEP2 優先順位付け

STEP1で抽出した課題について、以下の内容に沿って優先順位を付けました。

- ①ステークホルダーの期待について、大きく以下3項目に沿って抽出
 - ・ GRIスタンダード要求事項
 - ・ 顧客要求事項
 - ・ 一般(株主・顧客・社員・地域社会など)要求事項
- ②パイオラックスグループの重要性について、大きく以下3項目に沿って抽出
 - ・ グループ方針：事業方針、行動規範、環境方針など
 - ・ 社内活動：企画会議(営業・生産・品質・商品開発・管理)活動、全社環境活動など
 - ・ 法的要求：環境、雇用安全、政策、東京証券取引所有価証券上場規程など










STEP3 妥当性の確認

STEP2で特定した課題について、経営会議でパイオラックスグループの中期経営計画、経営戦略なども踏まえて妥当性を確認し、取締役会で承認しました。特定された重要課題は各部門の事業計画に織り込まれ、それぞれの活動につながっています。



サステナビリティマネジメント

パイオラックスグループのマテリアリティ

	マテリアリティ	PIOLAX ESG Vision 2030	マテリアリティ (重点活動項目)	リスクおよび機会	参照 ページ	関連する主なSDGs
E 環境	エネルギー 大気への排出 廃棄物	脱炭素社会と 循環型社会を 目指した企業活動	省エネへの徹底した 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の電動化により一部製品で需要減退の可能性 	P.27	   
			廃棄物削減への 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 環境その他の法規制の変更等により、規制遵守のための費用が発生する可能性 	P.28	
			資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> CASEに対応した商品の開発、特に電動化対応商品の需要が高まる 	P.28	
S 社会	雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等	安心して働ける 活気ある職場づくり	健康経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の高齢化やダイバーシティ対応の遅れにより、多様性が確保できない場合や有能な人材を採用・育成できなかった場合の企業発展の阻害 価格高騰や需要逼迫、調達先の不慮の事故等による原材料・部品の不足 	P.42	    
			ワークライフバランス		P.40	
			ダイバーシティ		P.39	
			人材育成		P.36	
			人権の尊重		P.31	
G ガバナンス	ガバナンス コンプライアンス	ガバナンス強化による 安定した組織運営	コーポレート ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 予期せぬ大規模な自然災害や感染症が発生した場合の原材料調達を含む製品の製造や物流、販売活動の被害 	P.52	 
			リスクマネジメント		P.56	

リスク管理

サステナビリティ委員会において、サステナビリティに関するさまざまなリスクと機会に対する全社統合的なマネジメントを実施しています。当社グループの事業活動に影響を与え得るリスクと機会を特定し、重要性の評価に応じた対応計画の策定と進捗状況をモニタリングしています。



サステナビリティマネジメント

指標と目標・実績

当社は、2030年度に向けたESGビジョン「PIOLAX ESG Vision 2030」に基づいて2024年度の目標を設定し、活動を実施しました。
未達成となった項目は、2025年度ESG活動目標および第8期環境中期目標に反映させ、継続して取り組みを進めていきます。

ESG活動目標

評価基準：○=100%達成 △=90～99%達成 ×=89%以下

マテリアリティ	PIOLAX ESG Vision 2030	重点活動項目	KPI		2024年度 目標	2024年度 実績		2025年度 目標 【2030年度 目標】
 	脱炭素社会と 循環型社会を 目指した企業活動	省エネへの徹底した取り組み カーボンニュートラルに向け た活動	間接消費 エネルギー (電気)	温室効果ガス： CO ₂ 排出量の削減	17%削減(2019年度比)	43%削減(2019年度比)	○	20%削減(2019年度比) 【46%削減(2019年度比)】
				原単位当たりの 電力消費量削減	2%削減(2022年度比)	1.9%削減(2022年度比)	△	3%削減(2022年度比)
		廃棄物削減への取り組み	原単位当たりの廃棄物削減		4%削減(2022年度比)	6%削減(2022年度比)	○	6%削減(2022年度比)
		資源の有効活用	リサイクル率の向上		80%	83%	○	80%以上
 	雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等 安心して働ける 活気ある職場づくり	健康経営の推進	従業員エンゲージメントのスコア化		指標の選定	新システム導入 スコア化開始(BM*設定)	○	エンゲージメントおよびストレス偏差値50%以上
			時間外労働の削減		10%削減(前年度比)	10%削減	○	前年度実績以上
		ワークライフバランス	有休取得率の向上		前年度実績以上 (前年度71%)	75%	○	前年度比向上
			女性育児休業取得率		100%	100%	○	100%
			男性育児休業取得率		前年度実績以上 (前年度60%)	50%	×	前年度実績以上
			重大災害件数		0件	0件	○	0件 【0件】
		ダイバーシティ	女性管理職比率		前年度実績以上 (前年度5.2%)	6.3%	○	前年度実績以上 【20%】
			女性新卒採用比率		前年度実績以上 (前年度22.7%)	27.3%	○	30%以上
			外国籍採用数		前年度実績以上 (前年度1名)	1名	○	前年度実績以上
			障がい者雇用率		法定(2.5%)以上	2.5%	○	法定雇用率以上(2.5%以上)

対象範囲：CO₂排出量の削減はパイオラックスグループ、原単位当たりのエネルギー消費量削減・原単位当たりの廃棄物削減・リサイクル率の向上はパイオラックス+国内グループ会社、そのほかはパイオラックス単体

※ベンチマーク



サステナビリティマネジメント

マテリアリティ	PIOLAX ESG Vision 2030	重点活動項目	KPI	2024年度 目標	2024年度 実績		2025年度 目標 【2030年度 目標】
<div>雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等</div> <div></div>	安心して働ける活気 ある職場づくり	人財育成	人財育成向上	着実な実行	国内社会人大学院派遣計画 (2025年度実施) 節目研修継続	○	教育体制整備の継続
		人権の尊重	パイオラックス人権方針の教育実施	実施	実施 (2,969名、 延べ1,404時間)*	○	実施
			ハラスメント防止教育の実施	実施	実施 (664名、延べ332時間)	○	実施
	公正・公平な取引と 信頼関係の向上	CSR調達の向上	取引先CSR遵守状況の確認 (CSRガイドライン合意書回収率)	100%	92%	△	CSRガイドライン対象範囲の拡大と回収率100%
			取引先ESG経営推進サポート	活動調査の実施	省エネ調査実施	○	活動調査の実施
			ドットフランク法に基づく紛争鉱物 問題への対応(調査回収率)	95%以上	95.7%	○	95%以上
			人権DD、CSRとしての拡張鉱物への 対応(調査回答率)	95%以上	89.6%	×	95%以上
<div>ガバナンス コンプライアンス</div> <div></div>	ガバナンス強化による 安定した組織運営	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス・コード対応	CGコード対応の強化	全原則遵守	○	CGコード対応の強化
			ステークホルダー・エンゲージメント の強化	適時開示の実施	適切な実施	○	適時開示の実施
			コンプライアンス体制の強化	社内教育実施 (国内外子会社含む)	実施 (781名、延べ677時間)	○	教育理解度の向上、理解度平均2.5以上
	リスクマネジメント	情報セキュリティの強化	メール訓練実施、 EDRシステム活用拡大	実施	○	メール訓練実施、EDRシステム活用拡大	
		災害対策の体制整備	マニュアルの整備	マニュアル整備 訓練実施	○	リスクの洗い出し訓練実施	

対象範囲：CO₂排出量の削減はパイオラックスグループ、原単位当たりのエネルギー消費量削減・原単位当たりの廃棄物削減・リサイクル率の向上はパイオラックス+国内グループ会社、そのほかはパイオラックス単体

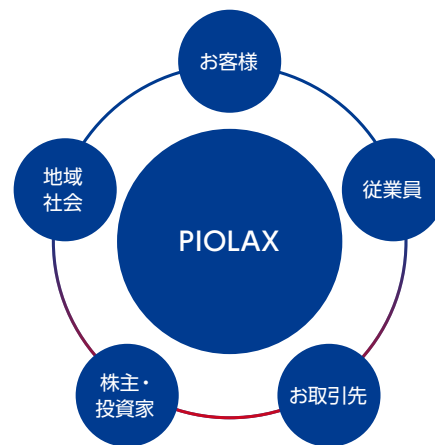
※受講人数はパート・契約社員・派遣社員等を含む



サステナビリティマネジメント

ステークホルダー・エンゲージメント

当社は多種多様なステークホルダーの要請や期待に応えるため、「ステークホルダーとの対話」を重視し、信頼の構築を目指しています。ステークホルダーを通じて認識した課題を目標の策定や活動内容につなげ、企業価値向上に努めていきます。



ステークホルダー	当社が担う責任・課題	主な対話・手段		事業活動への反映
お客様	パートナーシップ向上による安心・安全で信頼性のある商品の提供	● 日常の営業活動 ● 品質保証のサポート	● 工場見学 ● 技術の共創活動	商品の品質および安全性向上
従業員	従業員が能力と個性を発揮できる環境づくり	● 人財育成・人事評価 ● ダイバーシティの推進 ● 労使協議会 ● 安全衛生	● 改善活動や発明へのインセンティブ(グローバル小集団大会、新商品新技術報告会) ● 内部通報制度 ● ストレスチェック ● 経営トップメッセージの定期発信 ● 経営トップによる生産現場巡視	● 働きやすさを向上させる制度の充実 ● 職場安全を確保する施策の徹底
お取引先	公正・公平な取引と信頼関係の構築	● 訪問による情報交換 ● 購買方針説明会	● 表彰制度	サプライチェーン全体でのサステナビリティ推進
株主・投資家	企業価値の向上と適切な情報開示	● 株主総会 ● 決算説明会 ● 各種取材	● Web サイト ● 株主アンケート	● 適時適切な情報開示 ● ガバナンスの強化
地域社会	地域社会発展への貢献	● 地域ボランティア ● 近隣小学校向け工場見学会	● 業界団体への参加 ● 学生向け会社説明会とインターンシップの受け入れ	● 地域の活性化や発展への貢献 ● 地域の環境保全活動の徹底

外部評価(社外からの評価)

CDP評価

国際非営利団体CDPが実施する2024年度調査において、「気候変動B」、「水セキュリティB-」評価を取得しました。今後も環境問題への取り組みを強化し、さらに上位のスコア取得を目指していきます。



ESG投資インデックスに継続選定

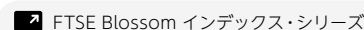
グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが構築した「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に4年連続で選定されています。また2025年には、「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初めて選定されました。



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



FTSE Blossom
Japan Index



「健康経営優良法人2025」に認定

経済産業省と日本健康会議が共催する健康経営優良法人認定制度において、従業員の健康管理を経営的な視点で考え戦略的に取り組む法人として、昨年に引き続き「健康経営優良法人2025」の大規模法人部門に認定されました。

